

特集1 2022年大学入学共通テスト 結果速報

★大波乱の「共通テスト」

難化により全国平均点は大幅に低下

— 『思考力』を問う問題増 複数科目で過去最低の平均点 —

今年度の大学入学共通テストは、1/15（土）、16（日）の2日間に行われ、本校生も福島大を会場に246名が受験しました。以下に、今回は7科目で過去最低の平均点となるなど、思考力・読解力を問う問題の増加により難易度が上昇し、5教科総合の平均点も大幅に低下し、大波乱の共通テストとなっています。今後の全国の受験生の動向に注目です。

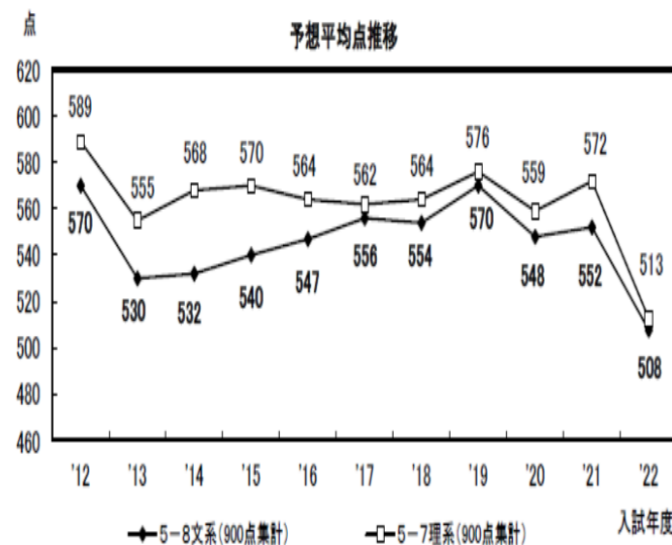
■ 全国平均点の状況

（「ベネッセ・駿台のデータネット」の発表データを引用）

5教科総合（900点）の予想平均点

・文系 508点（対前年 -44点）

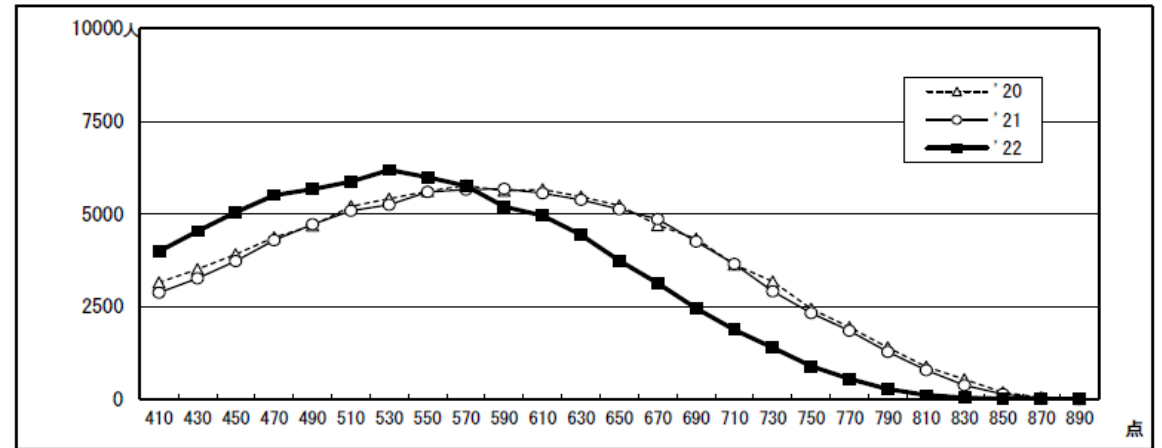
・理系 513点（対前年 -59点）



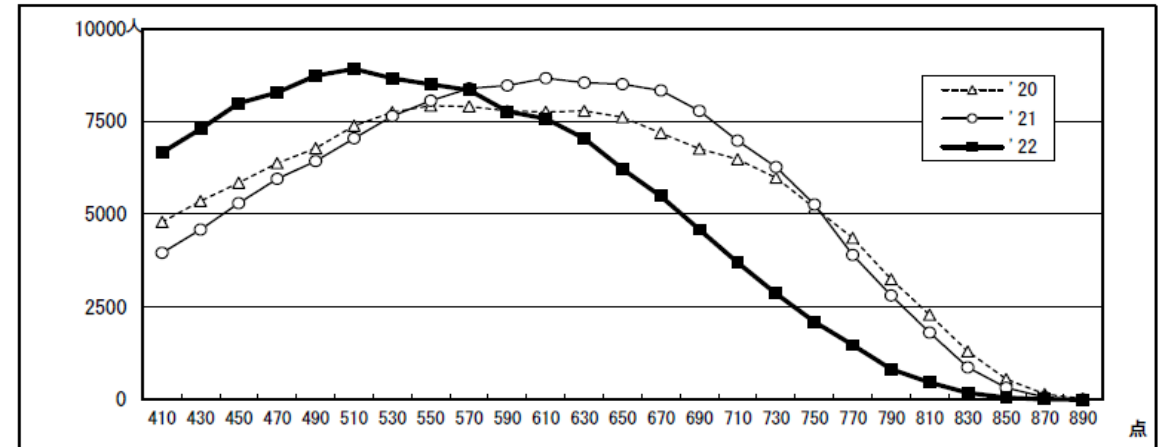
* 数学ⅠA、数学Ⅰ、生物、生物基礎、化学、日本史Bでセンター試験以来、過去最低の全国平均点になった。

	平均点	前年差	
国語	110	-7.5	
数学	数学Ⅰ・A	38	-19.7
	数学Ⅱ・B	43	-16.9
英語	リーディング	62	+3.2
	リスニング	60	+3.8
地歴・公民	世界史B	66	+2.5
	日本史B	53	-11.3
	地理B	59	-1.1
	倫理	64	-8.0
	政治・経済	57	-0.0
	現代社会	61	+2.6
	倫理、政治・経済	70	+0.7
理科	物理基礎	31	-6.6
	化学基礎	28	+3.4
	生物基礎	24	-5.2
	地学基礎	36	+2.5
	物理	61	-1.4
	化学	48	-9.6
	生物	49	-23.6
	地学	52	+5.4

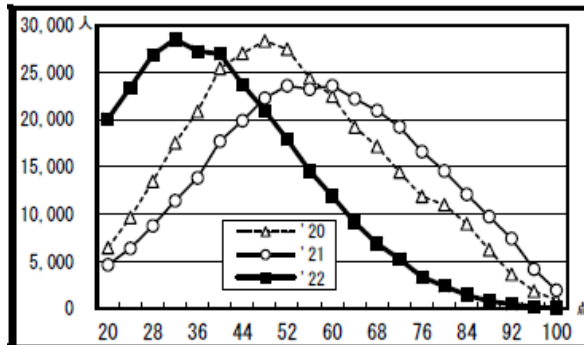
5-8文系（900点集計）



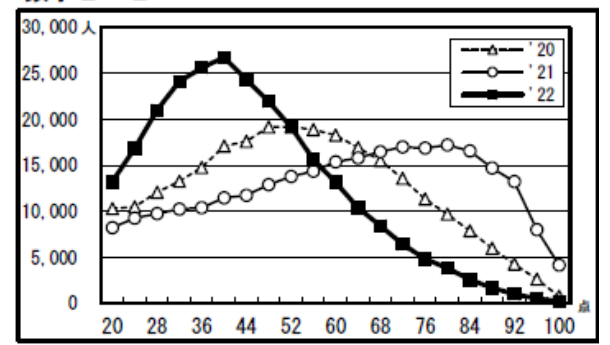
5-7理系（900点集計）



数学Ⅰ・A



数学Ⅱ・B



特集2 3年生になる前に、『国公立大入試』のしくみを学べ

決戦の舞台は「二次試験(個別学力試験)」

共通テストが終わり、国公立大入試はいよいよ最大の山場である個別学力試験（「二次試験」）へと進みます。まず、2/2までに、各大学へ出願（「二次出願」）し、2/25（金）からは「前期日程試験」が行われます。今年は大混戦の年ですから、「二次試験」の出来不出来が勝敗を分けることでしょう。

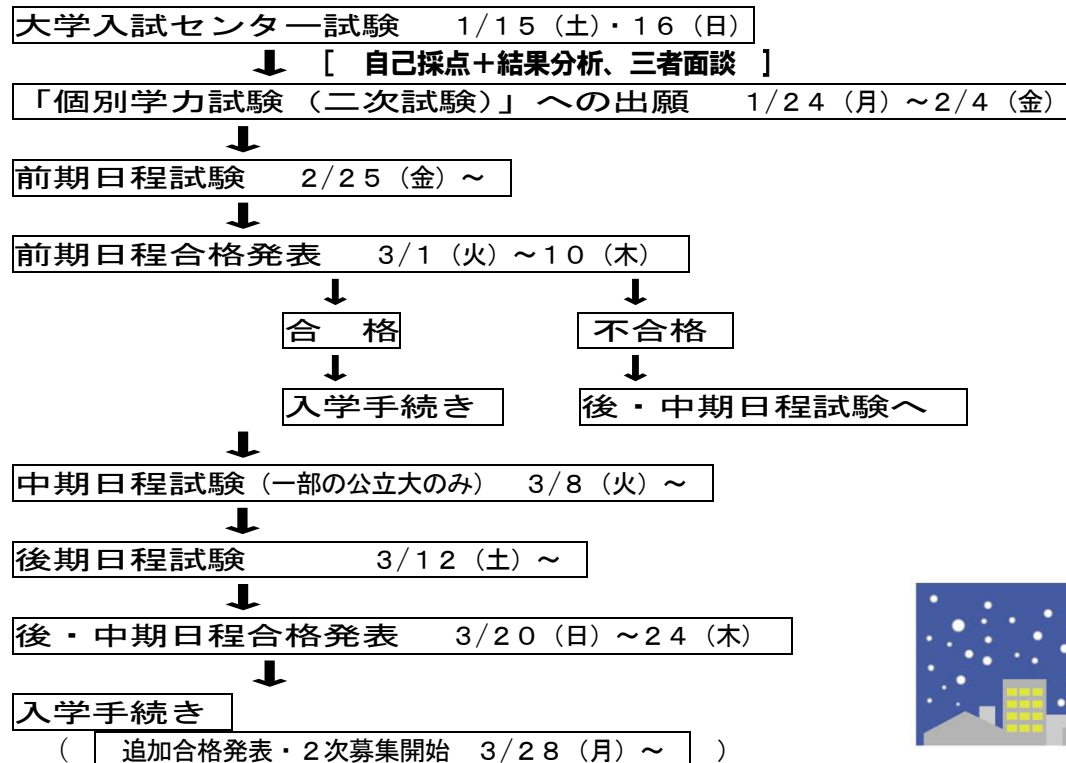
■ 国公立大二次試験のしくみ Q&A

これまでも同様の内容の進路だよりを発行してきましたが、ここで改めて、共通テストと国公立大入試について解説します。

Q1 今年（2022年）の国公立大入試はどのような日程ですか？

A1 国公立大入試は以下の日程で行われています。

* 共通テストの願書提出は10月上旬に終了



Q2 国公立大志望者は、「共通テスト」を必ず受けなければいけないのですか？

A2 国公立大学志望の場合、各大学が独自に実施する個別学力試験（通称「二次試験」）の前に、一次試験として、「大学入学共通テスト」を受験します。**多くの国公立大学の場合、「5(6)教科7科目」以上を受験しなければいけません。**また、**受験科目は、二次試験に出願する大学が指定する科目から選択**しなければいけません。さらに、**各科目の配点は大学によって異なり、これを「傾斜配点」と**言います。また**英語のリーディングとリスニングの配点比率も大学により異なります。**

* 郡山東高校では、国公立、私立を問わず、大学・短大の「学校推薦型選抜」を希望者は、その応募条件の1つとして、「共通テストを必ず受験すること（その大学の一般選抜で課される全科目）」を課しています。一般選抜合格者に負けない実力をつけて入学してほしいためです。

Q3 国公立大の個別学力試験（「二次試験」）は、どのように出願するのですか？

A3 共通テストの翌日、学校で一斉に「自己採点」を行います。結果は、ベネッセ・駿台予備校や河合塾に依頼し志望大学の合否判定をします。その後、その判定結果とこれまでの模試の成績や

各大学の個別学力試験（以下「二次試験」）の科目や配点比などを基に、個人面談を行いながら、の出願先を検討します。そして、**二次試験の前期日程・後期日程・（中期日程）で受験する大学を1校ずつ決定し、全日程を同時に**出願します。**ただし、出願後の変更は一切できません。**

また、新潟県立大や国際教養大など、一部の公立大学では、前・中・後期の日程に属していない「**独自日程試験**」を実施していて、他の日程の国公立大学と併願が可能です。

Q4 「第一志望」の大学は、どの日程で受験すべきですか？

A4 **前期日程で合格した場合はすぐに入学手続きを行い、手続き後は後期日程を受験できません。**入学手続きをしないと前期日程合格の権利を失うので、**第一志望の大学は前期で受験することになります。**ゆえに、後期日程は、前期合格者の抜けた「敗者復活戦」的な意味合いがあります。

Q5 「国公立大の合否」はどのようにして決まるのですか？

A5 **一次試験である共通テストの点数と、大学独自の二次試験の点数の合計によって、合否が判定されます。**それゆえ、共通テストの結果による合否判定で、志望大学が上位判定になったとしても、二次試験の出来が悪かった場合は不合格となる可能性が大いにあります。逆に、共通テストが悪くても、二次試験の出来しだいでは逆転合格することも可能です。ただし、これは、二次試験の配点の割合が大きい大学で、かつ、高い学力を有している人に限りますから、**なるべく上位の判定が出ている大学に出願するのが基本です。**

Q6 後期日程の廃止や推薦型・総合型の定員増加によってどんな影響がありますか？

A6 **後期日程を行わず、「前期日程のみ」という大学が増えています。**その大学が第1志望の場合、一般受験のチャンスは前期の1回だけになります。さらに、後期の出願先の選択肢が減ることになります。その結果、受験生が他大学の同系統の学部に移ることになるので、その大学の難易度は上昇します。すなわち、ある大学の後期日程の廃止は、**その大学の志願者だけでなく、他大学の志願者にも影響を及ぼすことになるのです。**

さらに、**後期日程の廃止と連動して、「学校推薦型」と「総合型」の募集定員の枠の拡大と前期日程の定員削減が進んでいるので注意が必要です。**

Q7 国公立大の「個別学力試験（「二次試験」）」は、どのような試験ですか？

A7 **記述式試験**が一般的です。受験科目と配点は大学により大きく異なります。出題科目は、**理系学部の場合、数学、理科、英語、文系学部の場合、国語、英語、社会**が中心となります。一般的に、**東北大などの難関大をはじめ、難易度の高い大学では、受験科目数も多く、二次試験の配点比率も大きくなります。合格には高い記述力・読解力が必要です。**

また、福島大や県立医科大の看護学部のように、「**小論文**」や「**総合問題（現代文読解、英文読解、データ読解等を含む）**」を課す大学も増えています。

■ 受験科目・配点比の例 （ ）の数は受験科目数

- **東北大** 工学部 前期
共テ:450点 (国100点 地・公(1)50点 数①②100点 理(2)100点 英100点)
二次:800点 (数300 理(2)300 英200)
- **福島大** 経済経営学類 前期
共テ:1100点 (国200点 地・公(2)200点 数①②200点 理(1)100点 英200点)
* 地・公2科目と数2科目の合計点を比較して高い方を2倍して400点とする。
二次:400点 (「小論文」または「英語」の選択 400点)